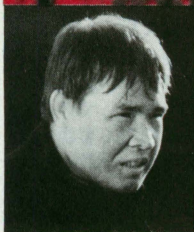


ソビエト クラシックス 第2弾

人生案内

映画史を変えた映像とサウンドの躍動
熱い人間愛に生きる永遠の名作



第1回ヴェネチア国際映画祭 最優秀監督賞受賞作品

ソビエトトーキー第1回作品

監督■ニコライ・エック 共同脚本■ニコライ・エック/アレクサンドル・ストルベル/レギナ・ヤヌシュクヴィチ 撮影■ワシリー・ブローニン
美術■イワン・ステパーノフ/ア・イェフメネンコ 音楽■ヤコフ・ストリヤール 録音■イェフゲニー・ネステロフ
出演■ニコライ・バターロフ/イワン・クイルラ/ミハイル・ジャガファーロフ/ウラジミール・ヴェスノフスキー/ミハイル・ジャーロフ

1931年ソビエト映画/モノクロ/スタンダード/1時間38分/製作●メジラプボムフィルム・スタジオ/配給●国際シネマ・ライブラリー



ソビエト クラシックス 第2弾

ソビエト・トーキー第1回作品

'32年第1回ヴェネチア国際映画祭最優秀監督賞受賞作品

1931年/ソビエト/モノクロ/スタンダード/1時間38分

■スタッフ

監督……………ニコライ・エック

共同脚本……………ニコライ・エック/アレクサンドル・ストルベル/レギナ・ヤヌシュケヴィチ

撮影……………ワシリー・ブローニン

美術……………イワン・ステパーノフ/ア・イエフメネンコ

音楽……………ヤコブ・ストリヤール

録音……………イエフゲニー・ネステロフ

■キャスト

セルゲーエフ……………ニコライ・バターロフ

ムスターファ……………イワン・クイルラ

コーリカ……………ミハイル・ジャガファーロフ

コーリカの父……………ウラジミール・ヴェスノフスキー

コーリカの母……………レギナ・ヤヌシュケヴィチ

フオムカ「ジガン」……………ミハイル・ジャロフ

レリカ……………マリア・ゴント

ワーシカ……………アレクサンドル・ノヴィコフ

製作:メジラプボムフィルム・スタジオ

配給:(株)国際シネマ・ライブラリー

【解説】

1931年に製作・公開されたソビエト最初のトーキー長編劇映画で、翌年の第1回ヴェネチア国際映画祭がニコライ・エック監督に最優秀監督賞を授賞、55年後の今日まで世界各国でくり返し上映されている名作。

1927年のアメリカ映画「ジャズ・シンガー」を皮切りに世界映画はトーキー時代に入るが、当初は画面に音をつけるだけが精一杯の演劇的な重苦しさで進化した。そのとき、トーキー映画とは映像とサウンドの自由な結合でなければならないという、視聴覚モンタージュの理論を劇的に立証したが、この「人生案内」である。と同時に、この映画は当時のおソビエトの大問題であった革命と国内戦の犠牲者、家なき浮浪児たちに生きる喜びと人間としての誇りをよみがえらせた世紀の実験的映像化でもあり、その後の非行少年を描くすぐれた世界の映画——たとえばジャン・ヴィゴの「操行ゼロ」やルイス・ブニュエルの「忘れられた人々」などに大きな影響を及ぼす原型となった。

日本では1932年、一部カットの上公開されて「キネマ旬報」ベスト・テン第2位にえられ、戦前のファンには永遠の名画と語り伝えられ、1975年、新版による再上映が岩波ホールで行なわれ再び大成功を収めた。

ニコライ・エック(1902~1976)はエイゼンシュテインと同じメイエルホルド門下で、ロシア・アヴァンギャルドの流れをくむ大胆な映像とサウンドの処理、胸打つ熱い人間愛の描写で、この映画を一世一代の世界的名作に仕上げている。セルゲーエフのニコライ・バターロフはモスクワ芸術座の名優だが、ムスターファのクイルラははじめ子どもたちは映画初出演のノンプロばかり、その新鮮な魅力はおどろくばかりである。

人生案内

ПЫТЕРКА В ЖИЗНЬ



「人生案内」に寄せられた賛辞

■これこそ「愛」の映画

淀川 長治

とにかく「人生案内」は、私にとって見事な映画だった。ムスターファの死体を機関車の先端にねかせたその機関車が、待ちかまえた歓迎陣の用意したテーブルを切るところ、ここで私は呼吸を止めた。この演出の見事さ。

私はこのムスターファが好きだった。今日までこれくらい個性あふらせた少年俳優はいまいと思うくらい、私はもう夢中で好きだった。そのムスターファの死体がテーブルを切る。その脚本とその演出の見事さに脱帽し、涙がここであふれ出た。

『人生案内』は人間の力を示し、人間がやりとげ得る自信を示し、さらに少年を愛の心で深く理解するところに、この映画の輝ける生命がひそむ。これこそ「愛」の映画である。

■アンドレ・バザン

(フランス)

「人生案内」は非行へと走る子供時代とその再教育をテーマとした映画の原型である。それは、少年たちが保持する「本来の」純粋さを心から確信し、称揚している。

■ジェイ・レイダ

(アメリカ)

「人生案内」は渾然一体となった技術的・劇的・政治的達成を示し、ソビエト映画史上、高い位置を占めている。その単純明快な人間の立場で、時代をはるかに越えた有効性を保ち続けている。

【物語】

1923年のモスクワ。革命と内戦、飢餓と悪疫で家庭を失った少年たちが巷に溢れていた。ボスのフオムカ「ジガン」は片腕のムスターファをはじめ浮浪児たちを集め、スリヤカップライをほしきままにしていた。

酷寒の12月の一晩、ソビエト政府の児童保護委員会はムスターファらを収容し、自治制の労働共同工場(コムナ)に送ることとなる。指導員のセルゲーエフはすきを見て脱走しようとするムスターファらの「善」に賭け、見事全員が現地到着という成功を収める。

他方、父と母のあたたかい家庭で15歳の誕生日を迎えたコーリカにも不運が見舞った。母が買物に出て浮浪児におそわれ、頭を打って急死した。父はさびしさのあまり酒に溺れ、息子に乱暴を働くようになる。コーリカは家を出て浮浪児の仲間に入り、ムスターファに代ってジガンの片腕となるが、労働工場の噂を聞き仲間を連れてコムナ行きを志願する。

労働共同工場では、少年たちははじめて靴や家具を作り、働くよろこびをとおして立ち直っていく。しかし古い習慣は根強い。春の雪どけて交通が途絶、原料が届かず仕事が終わる。セルゲーエフがモスクワに交渉に行っている間に少年たちは不満を爆発してあばれ出す。ムスターファやコーリカたちが自力で事態を収拾、セルゲーエフが持ち帰った鉄道建設に全員が打ち込むことになる。

手下を失ったジガンは情婦レリカとともに、鉄道建設現場近くに酒場を開き、少年たちを過去の道に引き戻そうとする。この企ても失敗し鉄道は完成する。一番列車が走り出す。その前途にジガンに殺されたムスターファの死体が……。

11/29(土) ~ 12/8(月)

〒140 東京都品川区南大井6-27-25(西友大森店5F)

キネカ大森

TEL. 03 - (762) - 6000